

## トンボ目

トンボ目の幼虫が「ヤゴ」と呼ばれ、水中に生息していることはよく知られています。ただし、よくご存じの、シオカラトンボやアカトンボ（アカネ類）、ギンヤンマなどは主に水田やため池などに生息しています。河川に主に生息しているのはカワトンボ科とサナエトンボ科の仲間です。しかし、流れが緩やかな河川下流部では、本来止水域に生息するトンボもよく採集されます。



アサヒナカワトンボ成虫

翅が褐色の個体と、透明な個体があります。

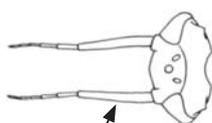
### カワトンボ科（トンボ目）

細長い体をしており、イトトンボと間違いやすいのですが、大型で触角第1節が他の節よりも長いことなどで容易に区別できます。川岸の植物が豊富な場所や落ち葉がたまった場所などに生息しています。中流部で最もよく観察されるのはハグロトンボです。

カワトンボ科、イトトンボ科、モノサシトンボ科などの幼虫は、からだが細長く、3本の尾があり、カゲロウ目にも似ています。しかし、これらのトンボの尾は平坦で幅広く、<sup>えら</sup>鰓の役割を果たしており、<sup>びさい</sup>尾鰓と呼ばれています。

カワトンボ科の触角

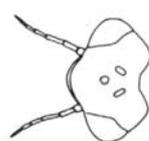
触角第1節が他の節よりも極端に長い



触角第1節

イトトンボ科やモノサシトンボ科の触角

触角は各節ほぼ同じ長さ



触角第1節が他の節よりも極端に長い



アサヒナカワトンボ

上中流部の落ち葉がたまった場所や川岸の植物の根際などに生息しています。



ハグロトンボ

アサヒナカワトンボよりもさらに細長く、中下流部川岸の植物の根際などに生息しています。

## モノサシトンボ科 (トンボ目)

イトトンボ科によく似ていますが、尾<sup>びさい</sup>鰓が長く、通常腹部を背面に反り返らせていることから区別可能です。

モノサシトンボは本来ため池などにすんでいます。流れが緩やかな下流部の川岸で見つかることがあります。しかし、年1回発生で5月頃に羽化するため、夏季には幼虫は見つかりません。



モノサシトンボ



モノサシトンボ成虫

腹部に定規の目盛のように白い紋があることからモノサシトンボと名付けられています。

## イトトンボ科 (トンボ目)

カワトンボに似ていますが、触角第1節は他の節とほぼ同じ長さで、体もより小さく弱々しい感じがします。イトトンボ科に属する種は本来池などの止水域に生息していますが、下流部の淀んだ場所でアオモンイトトンボやクロイトトンボ、セスジイトトンボ等が採集されることがあります。カワトンボ科よりも有機汚濁には強いようです。



アオモンイトトンボ

尾鰓に樹状の模様があります。体の色が緑の個体や褐色の個体があります。



クロイトトンボ

尾鰓には3つの連続した円形の模様があります。



アオモンイトトンボ成虫

流れの緩やかな川や、ため池、水田などで最も普通に見られるイトトンボです。

### ムカシトンボ科 (トンボ目)

日本にはムカシトンボ 1 属 1 種のみが生息しています。

河川源流部の礫<sup>れき</sup>の下に生息しています。幼虫は 7 年間も水の中で生活しており、様々な大きさの幼虫が同時に見られます。

福岡県のレッドデータブックでは準絶滅危惧に指定されています。



ムカシトンボ



若齢幼虫

若齢期には淡色部と褐色部が交互に見られますが成長すると全体褐色になります。このような成長に伴う体色の変化はヤンマ類の幼虫でも見られます。

### サナエトンボ科 (トンボ目)

河川に生息する代表的なトンボの仲間です。他のトンボのヤゴとは触角が幅広くなっていることで区別できます。河川中流部ではオナガサナエ、コオニヤンマ、ダビドサナエなどが普通に採集されます。



触角

コオニヤンマ

川岸の植物の根際などに生息しています。幅広く扁平な体で他種との区別は容易です。



触角

オナガサナエ

流れが速い瀬の礫の下に生息しています。



オナガサナエ成虫

サナエトンボ科の成虫は、石や葉の上に水平になるようにとまっている姿がよく見られます。



触角はほぼ三角形

オジロサナエ

川岸の砂泥中に生息しており、触角が三角形になっていることで他の種と区別できます。



触角

ダビドサナエ

流れが緩やかな川岸の砂泥中に生息しています。



触角

ミヤマサナエ

流れが緩やかな川岸の砂泥中に生息しています。

## オニヤンマ科 (トンボ目)

大型で毛深い体が特徴です。眼がやや前方に突出していることはシオカラトンボの幼虫に似ていますが、より大型であること、下唇（伸ばして餌を捕まえる部分）がギザギザに大きく切れ込んでいることで区別できます。成虫になるまで約5年間水の中で生活します。



オニヤンマ

泥質の細流や、上流部の川岸の泥の中に生息しています。

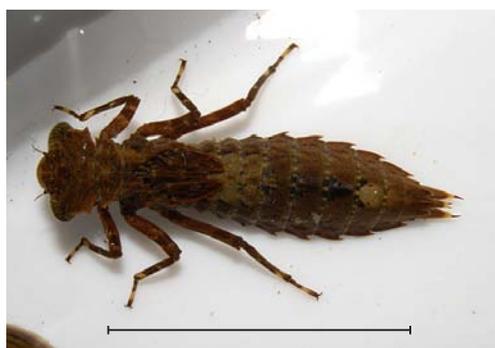


オニヤンマ成虫

体の模様はサナエトンボ科によく似ていますが、より大きいことと、サナエトンボ科は石や葉の上に水平になるようにとまるのに対して、オニヤンマはぶら下がるようにとまることでも区別できます。

## ヤンマ科 (トンボ目)

ヤンマ科で主に河川に生息する種は、福岡県下では上流部ではミルンヤンマ、中下流部の川岸の植物の根際などではコシボソヤンマが知られています。また、流れが緩やかな下流部の川岸では、ため池等の止水域に生息しているギンヤンマもよく採集されます。



コシボソヤンマ

中流部でヨシなどの植物の根際に生息しています。捕まえると下の写真のように脚を縮め、背をそらして死んだまねをします。



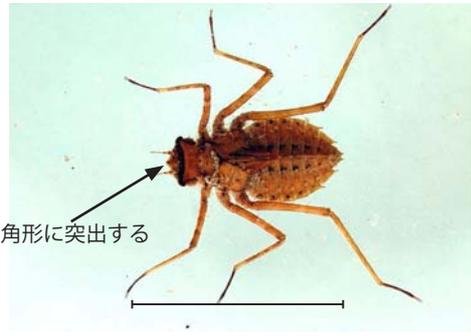
ギンヤンマ

本来ため池等の止水域に生息していますが、流れが緩やかで植物が繁茂した下流部の川岸でもよく採集されます。体色は茶褐色から緑色まで様々です。



エゾトンボ科 (トンボ目)

足が長いのが特徴的なコヤマトンボ属の幼虫が、中下流部で見つかります。また、主に止水域に生息するオオヤマトンボが流れが緩やかな下流域で見つかることもあります。



**コヤマトンボ**  
 緩やかな流れの場所の植物の根際などで採集されます。生息場所や体が幅広く平たい点はコオニヤンマに似ていますが、脚が長いことや触角が細長いこと、頭部前縁が三角形に突出していることで容易に区別できます。

トンボ科 (トンボ目)

トンボ科の種類は本来止水域に生息していますが、流れが緩やかな下流部や河川敷の水たまり、植物が繁茂している小河川などではシオカラトンボやウスバキトンボ、ショウジョウトンボなどが見つかることがあります。



シオカラトンボ

小河川ではしばしば見つかります。汚濁には強く、都市部の三面コンクリートの水路などでもよく見つかります。



ウスバキトンボ

お盆の頃に多数飛んでいるのを見かけるトンボです。主に水田などに生息していますが水田近くの水路などでも見つかります。



ショウジョウトンボ

池に多いトンボですが、流れが緩やかで植物が豊富な小河川ではしばしば見つかります。



ショウジョウトンボ成虫

赤トンボの名で親しまれている、アカネトンボの仲間よりは一回り大きく、夏にも真っ赤な姿が見られます。